



学びの広場シリーズ 診療編

2

# 緩和ケアとは？



## はじめに

緩和ケアは、病気（がん、慢性心疾患、慢性呼吸器疾患、神経難病など）になっておこるさまざまなつらさをやわらげ、患者さんやご家族を総合的に支える治療やケアのことです。

本冊子では、緩和ケアに関する説明、施設の緩和ケア（緩和ケアチームや緩和ケア病棟など）、在宅緩和ケアに関する内容を中心にまとめています。

ぜひ本冊子をご一読いただき、皆さまの理解や不安をやわらげる一助になれば幸いです。



# 目次

1	緩和ケアってなあに？	.....	4
	(1) 緩和ケアとは	.....	4
	(2) 緩和ケアはいつでも受けられる	.....	5
	(3) あなたを支えるチーム	.....	7
	(4) 緩和ケアはいろいろな場所で受けられる	.....	9
	(5) 緩和ケアの内容	.....	11
2	緩和ケアに関する情報の集め方	.....	13
	(1) 担当医や看護師、相談室に相談する	.....	13
	(2) 訪問看護ステーションなどの 施設に相談する	.....	13
	(3) インターネットで「緩和ケア」の 情報を探す	.....	14
3	病院で緩和ケアを受ける	.....	15
	(1) 一般病棟で「緩和ケアチーム」の ケアを受ける	.....	15
	(2) 緩和ケアチーム	.....	16
	(3) 「緩和ケア病棟」でケアを受ける	.....	17
	(4) 緩和ケア病棟	.....	18
	(5) 緩和ケア病棟よくある質問	.....	21
	Q1 末期がんの人が入院するの？	.....	21
	Q2 病気を告知しなければだめなの？	.....	21
	Q3 すぐに利用できるの？	.....	22
	Q4 外泊や退院はできるの？	.....	22

	Q5	入院中はどんな風に過ごすの？	．．．．．	23
	Q6	家族は付き添ったほうがいいのか？	．．．．．	23
4	自宅で緩和ケアを受ける		．．．．．	24
	(1)	通院して緩和ケアを受ける (緩和ケア外来)	．．．．．	24
	(2)	在宅で訪問サービスを受ける	．．．．．	24
	(3)	在宅緩和ケアでできること	．．．．．	26
	(4)	在宅緩和ケア よくある質問	．．．．．	28
	Q1	自宅での介護は大変なのでは？	．．．．．	28
	Q2	家族だけで介護していくことが できますか？	．．．．．	28
	Q3	在宅緩和ケアを受ける 条件はあるの？	．．．．．	29
	Q4	急に具合が悪くなったとき 診てもらえるの？	．．．．．	30
	Q5	自宅で最期まで過ごすには どうしたらいいですか？	．．．．．	31
5	緩和ケアの医療費		．．．．．	32
	(1)	緩和ケア病棟の入院費	．．．．．	32
	(2)	在宅緩和ケアの医療費	．．．．．	35

# 1 緩和ケアってなあに？

## ● 緩和ケアとは

緩和ケアは、病気（がんなど）にともなって起きるさまざまなつらさをやわらげるためのケアです。

体のつらさ、こころのつらさ、生活のつらさなど、さまざまなつらさを抱えた患者さんとご家族を、総合的に支えるケアのことを言います。

長い間つらい状態が続くと、考えたり、眠ったりすることも大変になります。食欲や気力も落ち、これまで通りの生活を送ることが難しくなってしまうかもしれません。

体やこころのつらさをやわらげることは、とても大切なことです。



## ● 緩和ケアはいつでも受けられる

緩和ケアは、病気（がんなど）と診断されたときから、いつでも受けることができます。

以前は、緩和ケアはがんを治すための治療の継続が難しくなった患者さんに対してだけ行うものと考えられていました。

しかし今では、つらさを取って、自分らしく生きていくことは、病気の時期を問わず、大切なことだと考えられるようになっていきます。

緩和ケアの基本には、「患者さんやご家族の QOL（生活の質など→P.6）を、一番に大切にしていこう」という考え方があります。

緩和ケアは、病気そのものが引き起こすつらさはもちろん、がんの治療や検査が原因となるつらさもやわらげていきます。“患者さんご家族が、自分らしい生活を取り戻す”それが、緩和ケアの目指すゴールです。

最善の治療を受けても、病気そのものを完全には治しきれないことがあります。たとえ治療が難しい状態になっても、緩和ケアは患者さんご家族を支えていきます。



## QOLとは？

QOL は、Quality Of Life (クオリティ オブ ライフ) の略です。

「生活の質」「生命の質」「生きることの質」などと訳されています。病気と上手につきあっていくためには、生命の「長さ」とともに、その「質」のことも十分に考えていくことが大切です。



## ● あなたを支えるチーム

がん患者さんとそのご家族の悩みはさまざまです。一つ一つの悩みが互いに影響しあい、状況がさらに深刻になることもあります。

複雑に重なりあった悩みをときほぐし、包みこむような総合的なサポートを行うために、緩和ケアにおいてはチームの力であなたとご家族を支えます。

患者さんにご家族は、チームが支える対象であると同時に、チームの大切なメンバーでもあります。



### ご家族も緩和ケアチームのメンバーです

ご家族も、緩和ケアチームの一員です。

ご家族によるサポートは、患者さんにとって、専門スタッフのケア以上に効果的な、かけがえのない支えになることがあります。「そばにいる」というだけでもよいのです。

ただ、不安を抱えながら病気と向き合っているのは、ご家族も同じです。時には、大切な人を支えることにがんばりすぎて、疲れてしまったり、悩んだりすることもあります。

緩和ケアは、ご家族もサポートします。いつでも胸の内をお話しください。ご家族が穏やかにいることが、患者さんの安心にもつながります。

## 「チームケア」のイメージ



緩和ケアにおける多職種チームのサポートは、  
一般病棟(⇒ p.15) や ご自宅(⇒ p.24)でも受けることができます。

● 緩和ケアはいろいろな場所で受けられる

緩和ケアは、外来、入院（一般病棟、緩和ケア病棟）、在宅など、希望にあわせて、様々な場所で受けられるようになっています。



## 入院での緩和ケア

- 設備が整っている
- 医師や看護師が常時ケアをしてくれる
- 周りの方と悩みを共有できる
- ご家族の介護負担が少ない
- △ ご家族と一緒に過ごせない
- △ 生活に制限がある



## 自宅での緩和ケア

- 住み慣れた環境で療養できる
- 地域の中で暮らすことができる
- 自分の生活リズムを維持できる
- ご家族と一緒に過ごせる時間が増える
- △ 医師や看護師が常に近くにはいない
- △ 通院や介護でご家族の負担が増える



○はプラス面、  
△はマイナス面ですが、  
あくまで一般論として  
お考えください。

## ● 緩和ケアの内容



### 痛みや つらい症状の軽減

痛みやつらい症状（息苦しさ、吐き気、食べられない、不眠だるさなど）をやわらげます。

### 「あなたらしさ」を 大切にします

ケアの内容や、生活面であなたが大切にしたいと思うことについては、できる限りあなたの希望を尊重します。



### 大切な人たちとの時間

ご家族や友だちと気がねなく過ごせます。緩和ケア病棟では、面会、外出、外泊、飲食などの制限が一般の病棟よりも緩やかです。



※新型コロナウイルス感染症などの影響で、面会や外出・外泊に制限が設けられる場合があります

## こころのケア

患者さんにご家族のこころをケアします。病気に関することはもちろん、生活上の悩みも受けとめて、サポートします。



## 日常生活のサポート

食事、入浴、排泄、散歩など、日常生活のいろいろな場面で専門スタッフによるサポートを受けることができます。訓練を受けたボランティアも患者さん・ご家族の支援に活躍しています。



## 家族のケア

家族は、患者さんにとって大切なサポーターですが、悩んだり、疲れたりすることもあります。家族のサポートは、緩和ケアの大切な目標のひとつです。必要に応じて、家族の休養のためのケア（レスパイトケア）を提供します。



## 2 緩和ケアに関する情報の集め方

### ● 担当医や看護師、相談室に相談する

緩和ケアを受けてみたいと思ったら、まずは今かかっている病院の担当医や看護師に相談するのがよいでしょう。

また、通院されている病院の「よろず相談」、「医療相談室」、「相談支援センター」や「緩和ケアセンター」等を利用するという方法もあります。ソーシャルワーカー(医療相談員)や看護師が、地域の緩和ケア病棟や在宅緩和ケアに関する情報を提供し、相談に対応しています。

### ● 訪問看護ステーションなどの施設に相談する

緩和ケアは、一般の外来受診のように通院しながら受けたり、自宅に居ながら訪問ケアとして受けたりすることもできます。自宅で緩和ケアを受けることをご希望であれば、お近くの訪問看護ステーションに相談してみるのもよいでしょう。

訪問看護ステーションでは、医師の指示のもと、看護師が患者さんの自宅を訪問し、医療的なケアやこころのケア、身の回りのお世話などの看護サービスを提供しています。

## ● インターネットで「緩和ケア」の情報を探す

緩和ケアに関する情報は、インターネットを上手に使いえば、さまざまな情報を、手軽に入手することができます。下記のようなホームページを参考にご覧ください。



それぞれ検索サイトで、名称を入れてください

### ● [国立がん研究センター「がん情報サービス」](#)

『病院を探す』のバナー（四角い枠）から進んでいくと、関連情報の項目に全国の緩和ケア病棟の一覧が掲載されています。

### ● [NPO法人 日本ホスピス緩和ケア協会](#)

ホスピス緩和ケアの開設や緩和ケアを受けることができる医療機関の一覧やホスピス緩和ケアQAなどが掲載されています。

### ● [緩和ケア.net](#)

緩和ケアに関するさまざまな情報が掲載されています。緩和ケアに関するキーワードに沿った説明、緩和ケアの医療費について、緩和ケアに関する動画などのコンテンツが掲載されています。

### ● [日本在宅ホスピス協会 在宅医療機関検索](#)

自宅での療養を希望される方のための在宅医療機関を検索することができます。

### 3 病院で緩和ケアを受ける

病院で緩和ケアを受ける方法は、大きく分けて2つあります。



#### 病院で緩和ケアを受ける方法

- 一般病棟で「緩和ケアチーム」のケアを受ける
- 「緩和ケア病棟」でケアを受ける

#### ● 一般病棟で「緩和ケアチーム」のケアを受ける

「緩和ケアチーム」は、入院治療中におこる体やこころの様々なつらさをやわらげるための専門チームです。あなたが入院している病棟のスタッフと協力しながら、あなたを支えます。

地域のがん診療の中心を担う「がん診療連携拠点病院」には、緩和ケアチームが必ずあります。

※ 通院で受ける緩和ケアについては [P.24](#)をご覧ください。



「緩和ケアチーム」の普及によって、一般病棟でも緩和ケアが受けられるようになってきました。

入院中つらいときには、「緩和ケアチーム」の支援を受けられないか、スタッフにたずねてみてください。

## ● 緩和ケアチーム

緩和ケアチームは、一般病棟で治療を受けている患者さんとそのご家族を支えます。緩和ケアチームでは、症状緩和の専門医師、精神科医、看護師、薬剤師、公認心理師などが、それぞれの高い専門性を生かし、お互いの役割を尊重しながら、力をあわせて活動しています。



### チームカンファレンス

緩和ケアチームのメンバーは、カンファレンス（会議）で互いに対等な立場で意見を出しあいながら、患者さんやご家族にとって最も望ましい支援のあり方を考えます。患者さんの治療を担当している医師や病棟スタッフたちとも、密接な連携を取りあいます。



## ● 「緩和ケア病棟」でケアを受ける

「緩和ケア病棟」は、緩和ケアを専門的に行う入院病棟です。  
「ホスピス」と呼ばれることもあります。

主に、外来や在宅でつらさをやわらげることが困難な状況の患者さんが利用します。



## ● 緩和ケア病棟

緩和ケア病棟には、家族室やキッチン、談話室などが設置されています。また、食事やおしゃべりを楽しめるデイルームや多目的ホール、自由に散歩できる庭園を設けている施設もあります。参考として静岡がんセンターの緩和ケア病棟の写真をご紹介します。なお、外観や内装は施設によって異なります。



### 緩和ケア病棟

静かで穏やかな環境で生活できるよう工夫されています。

施設によっては、車いすやベッドのまま散策できる庭園があるところもあります。

### 病室

病室は半数以上が個室です。一般の病棟よりも少し余裕のある広さになっています。ご家族向けの控え室もあります。



### 談話室・台所

一定の広さがある談話室のほか、団らんのための食事を作ることができるキッチンも備えつけられています。（通常の食事も、もちろん利用可能です）

## 季節の行事やコンサート



### 四季折々の行事

お花見、納涼祭、クリスマスなどの四季折々の行事、誕生日などのそれぞれの方の大切な記念日を、スタッフやボランティアと一緒に楽しめます。

### コンサート

プロの演奏家がボランティアとして演奏にくることもあります。



## ご家族との時間を大切に

緩和ケア病棟の面会、外出、外泊の制限は、一般の病院に比べて緩やかで、ご希望に合わせて調整されます。患者さんご家族のプライバシーは最大限に守られます。



※新型コロナウイルス感染症などの影響で、面会や外出・外泊に制限が設けられる場合があります

## 緩和ケア病棟の入院の条件

原則として、がんの治癒が困難で、体やこころにつらさを抱えている患者さんが入院の対象になります。

入院の条件は、通常、

①患者さんご家族が入院を希望すること

②外来や自宅で緩和ケアを行うことが難しいこと

の二点です。

患者さんにとって緩和ケア病棟に入院した方がよいのかどうか、入院するとしたらその時期はいつにするか、ということは、緩和ケア外来での診察結果をもとに、緩和医療科の医師、看護師や公認心理師等の専門職、病棟スタッフなどが多職種で話し合いながら決めていきます。



## ● 緩和ケア病棟よくある質問

### Q 末期がんの人が入院するの？

A

一般的には、緩和ケア病棟では、がんを治すための治療が体力的に難しい患者さん、またはそういった治療を希望しない患者さん、

「がんによるさまざまなつらさを楽しめるためのケアをしてほしい」という患者さんを受け入れています。

施設によっては、レスパイトケア（介護者の休養のための一時入院）ができる場合もあります。詳しくは、各施設にお問い合わせください。

### Q 病気を告知しなければダメなの？

A

施設によって方針に違いがあるので、たずねてみてください。緩和ケア病棟の中には、病名や病状を知っていることが患者さん自身のよりよい生活につながると考えて、病気の告知を入院の前提条件としている施設もあります。

施設によっては、患者さんが病名や病状を理解していることを入院の条件とはしてはいませんが、入院後に患者さんの求めに応じて病気のことや入院の目的をお話しする場合があります。

**Q****すぐに利用できるの？****A**

施設にもよりますが、一般的には、緩和ケア病棟の入院を希望してから何週間か待つことが多いようです。

体調が急に悪くなってからでは、間に合わないこともあります。

緩和ケア病棟の利用をご希望の場合は、「緩和ケアを受けたい」という意思を担当医に伝えた上で、希望する施設や病院の緩和ケア外来を一度受診して、相談しておくといよいでしょう。

緩和ケア外来は多くの場合、予約制になっています。また、担当医の紹介状（診療情報提供書）が必要になります。まずは希望する施設に電話をし、必要な手続きや書類を確認しましょう。入院の順番については、申し込みの順番だけでなく、患者さんの体の具合や緊急度を配慮する施設が多いようです。

**Q****外泊や退院はできるの？****A**

患者さんの体調が落ち着けば、外出、外泊はもちろん退院も可能になります。緩和ケア病棟は限られたベッド数でできるだけ多くの患者さんをケアするため、体調が落ち着いた患者さんには、他の医療機関への転院をお願いしたり、ご自宅での療養をお勧めすることもあります。

なお、体調が悪化した際には再入院が可能です。

## Q 入院中はどんな風に過ごすの？

A

緩和ケア病棟では、患者さんご家族が、気がねなく、自分らしい生活を送ることができるよう、いろいろな配慮がなされています。

緩和ケア病棟では、「何時に必ずこれをしてください」といった日課のようなものは、原則的にありません。起床、就寝、食事、面会などの時間については、可能な限り、患者さんのご希望にそえるようにしています。

## Q 家族は付き添ったほうがいいの？

A

患者さんのご希望があれば、付き添うこともできます。ご家族によるサポートは、薬や病棟スタッフのケア以上に、患者さんのつらさを癒（いや）す効果があります。緩和ケア病棟は個室が多く、プライバシーも十分配慮されます。ご家族の希望があれば、補助ベッドや院内の家族室で宿泊することも可能です。

※新型コロナウイルス感染症などの影響で、付き添いに制限が設けられる場合があります



## 4 自宅で緩和ケアを受ける

緩和ケアは、自宅で生活を続けながら受けることもできます。自宅で緩和ケアを受ける際には、病院や診療所に定期的に通院しながら受ける方法と、在宅でかかりつけ医や看護師の訪問を受ける方法があります。

### ● 通院して緩和ケアを受ける（緩和ケア外来）

入院して受ける緩和ケアと同じように、通院でも、痛み止めの薬をもらったり、悩みごとを相談したりすることができます。また、専門の緩和ケア外来を設置している病院もあります。

### ● 在宅で訪問サービスを受ける

通院して緩和ケアを受けることが難しくても、自宅に居ながら、さまざまな訪問サービスを受けることが可能です。

医療保険や介護保険などを使い、訪問診療（かかりつけ医）、訪問看護（看護師）、訪問介護（ホームヘルパー）、訪問薬剤管理指導（薬剤師）、訪問リハビリテーション（理学療法士など）など、

在宅で訪問サービスを受けることができます。



薬の進歩や制度の充実によって、自宅でも、質の高い緩和ケアを受けることができるようになりつつあります。  
在宅緩和ケアは、特にこんな方選ばれています。

住み慣れた自宅で  
できるだけ長く  
暮らしたい。

人間関係の  
わずらわしさを忘れ  
家族や知人と  
できるだけ多くの  
時間を一緒に楽  
しみたい。



やり残した仕事を  
やりとげたい。  
家族としての務めを  
果たしたい。

誰にも気がねなく  
自由に好きなことを  
して過ごしたい。

## ● 在宅緩和ケアでできること

在宅緩和ケアでは、次のようなサービスを受けることができます。医師や訪問看護師、ケアマネジャー（介護支援専門員）と相談しながら、上手に利用しましょう。



### 外来での診察 ／訪問診療

病院に通院したり、自宅でもかかりつけ医による定期的な診察を受けたりすることができます。

### 訪問看護サービス

看護師がご自宅を訪問します。体の具合をチェックするほか、医師の指示による医療処置や体調などの報告を行います。



### 訪問介護サービス

ホームヘルパーがご自宅を訪問して、食事、着替え、入浴、用便などのお手伝いをします。





## 訪問入浴サービス

自宅のお風呂に入るのが難しいときは、携行式の専用バスタブを使う訪問入浴サービスを受けられます。

## 訪問リハビリテーション

専門のスタッフが、日常生活をスムーズにして、痛みを予防するためのリハビリテーションを行います。



## デイケア/デイサービス

家族が不在の日中だけ施設に通って、ケアを受けたり、友だちと交流を楽しんだりすることができます。

このほかにも、福祉用具の購入やレンタル、具合が悪くなったときの短期的な施設入所など、いろいろなサービスを利用することができます。くわしくは、医師（担当医、かかりつけ医）、病院の医療相談室、担当地区の地域包括支援センター利用されている訪問看護ステーションなどにご相談ください。

## ● 在宅緩和ケア よくある質問

**Q** 自宅での介護は大変なのは？

**A**

緩和ケア病棟に入院することに比べると、確かにご家族の負担は大きくなります。

その一方で介護のふれあいの中で、お互いにとって大切なことが伝わる場合もあります。

また、最近では、在宅で利用できるさまざまなサービスも充実してきました。

これらのサービスのほとんどは、医療保険や介護保険等を使って、総費用の1割～3割の自己負担額で受けられます。

**Q** 家族だけで介護していくことはできますか？

**A**

ご家族だけで介護していくこともできますが、

患者さんの状態によっては、在宅緩和ケアを行う専門のスタッフ（かかりつけ医や訪問看護師など）の協力を得ながら、介護していったほうが良い場合もあります

患者さんにとってはご家族の支えが何よりも励みになります。

わからない事・不安な事は専門的なスタッフに質問しながら、ご家族ができるケアを行っていくことが大事になってきます。

**Q****在宅緩和ケアを受ける条件はあるの？****A**

患者さんご本人が家で過ごすことを希望することが、在宅緩和ケアを受けるために必要な条件です。

これに加えて、日常生活をサポートしてくれるご家族が（できれば複数）いることや、在宅緩和ケアを行う病院や診療所が自宅の近くにあることも、在宅緩和ケアを受けるために望ましい条件と言えます。病状によっては在宅緩和ケアを受けることが難しい場合もあります。

ご自分の場合はどうなのか、担当の医師に相談してみてください。



**Q****急に具合が悪くなったとき診てもらえるの？****A**

訪問看護師やかかりつけ医に相談して、急に具合が悪くなった時にどこに連絡すればよいか、あらかじめ確認しておきましょう。

訪問看護ステーションや在宅療養支援診療所が、24 時間体制で患者さんご家族を応援します。

自宅で療養することが難しくなったときには、一時的に入院して、その後のことを医師と相談することも可能です。最近では在宅緩和ケアに力を入れている病院も出てきています。



Q

自宅で最期まで過ごすにはどうしたらいいですか？

A

ご自宅で最期まで過ごす事を希望される場合は、あらかじめ、訪問診療をしてくれる「かかりつけ医」や「訪問看護師」を決めておく必要があります。

定期的にかかりつけの医師による訪問診療を受けていれば、自宅で最期まで過ごすこともできます。

残された時間が限られてくると、患者さんの体やこころの状態が変化することがあります。どのような対処が良いかは患者さんの状態によって異なります。ご家族も見ていて心配になる場合もあるかもしれません。

● どのような変化が予想されるのか

● どんなことが起きたらかかりつけの医師や訪問看護師に連絡すればいいのか

など気がかりなことは担当の医師や看護師に必ず相談しておきましょう。

## 5 緩和ケアの医療費

### ● 緩和ケア病棟の入院費

緩和ケア病棟も一般病棟と同じように、入院費の自己負担の上限額は、年齢や所得によって異なります。最終的な自己負担額となる毎月の「自己負担限度額」は、加入者が70歳以上かどうか、また、加入者の所得水準によって分けられます。 ※詳細は静岡がんセンター小冊子「医療費のしくみ(高額療養費制度の項目)」をご覧ください。静岡がんセンターのホームページよりダウンロードできます。

**70歳未満の方**

2023年12月現在

	所得区分	自己負担限度額
区分ア	年収1,160万円～ 標準報酬月額83万円以上/ 課税所得690万円以上	252,600円+ (総医療費-842,000円)×1% 【140,100円】
区分イ	年収約770～約1,160万円 標準報酬月額53万以上/ 課税所得380万円以上	167,400円+ (総医療費-558,000円)×1% 【93,000円】
区分ウ	年収約370～約770万円 標準報酬月額28万以上/ 課税所得145万円以上	80,100円+ (総医療費-267,000円)×1% 【44,400円】
区分エ	年収156万～約370万円 標準報酬月額26万円以下/ 課税所得145万円未満等	57,600円 【44,400円】
区分オ	住民税非課税者	35,400円 【24,600円】

◆ 認定証の適用区分と、上の表の区分ア～オを照らし合わせて、該当箇所をご覧ください。

◆(注) 過去12ヶ月以内に4回以上高額療養費に該当した場合は、4回目以降の自己負担限度が引き下げられ、【 】内の金額になります。これを<多数該当>といいます。

所得区分		窓口負担割合	外来のみ (個人ごと)	入院および 入院した月の外来分 (世帯単位※4)
現役並み所得	<b>現役並みⅢ</b> 年収 約1160万円～ 標準報酬83万円以上/ 課税所得690万円以上	3割	252,600円+ (総医療費-842,000円) X1% 【140,100円】※1	
	<b>現役並みⅡ</b> 年収 約770万円～ 1160万円 標準報酬53万円以上/ 課税所得380万円以上		167,400円+ (総医療費-558,000円) X1% 【93,000円】※1	
	<b>現役並みⅠ</b> 年収 約370万円～ 770万円 標準報酬 28万円以上/ 課税所得 145万円以上		80,100円+ (総医療費-267,000円) X1% 【44,400円】※1	
一般	いずれも該当しない方	<b>2割</b> (70歳以上 75歳未満) <b>1～2割</b> (75歳以上) ※2	18,000円 〔年間上限 14,400円〕	57,600円 【44,400円】※1
住民税非課税	<b>低所得Ⅱ</b> (Ⅰ以外の 住民税非課税の方)	<b>1割</b> (75歳以上)		24,600円
	<b>低所得Ⅰ</b> (住民税非課税で年金収入80万円以下など 総所得金額がゼロの方)	<b>2割</b> (70歳以上 75歳未満)	8,000円	15,000円

※1 過去12ヶ月以内に4回以上高額療養費に該当した場合は、4回目以降の自己負担限度額が引き下げられ、【 】内の金額になります。

※2 75歳以上の2割の対象者は、課税所得が28万円以上かつ「年金収入(遺族・障害年金は含まない) + その他の合計所得金額」が単身世帯の場合200万円以上、複数世帯の場合320万円以上の方

入院中の食事代の自己負担分、差額ベッド料（室料）などの保険適用外の費用等は高額療養費制度の対象にはなりません。

差額ベッド料は、病院ごとに設定しています。

## 入院時の食事代

入院中の食事代は、患者さんの自己負担になります。住民税非課税世帯の方で限度額認定・標準負担額減額認定証をお持ちの方は、食事代が減額されます。

### 70歳未満の食事代

所得区分	一食分の費用
住民税課税世帯 (区分ア～エ)	490円
住民税非課税世帯 (区分オ)	230円 (90日超で180円)

### 70歳以上の食事代

所得区分	一食分の費用
住民税課税世帯 現役Ⅰ～Ⅲ・ 一般	490円
住民税非課税 (低所得Ⅱ)	230円 (90日超で160円)
住民税非課税かつ 一定所得以下 (低所得Ⅰ)	110円



※ 医療費に関するご相談は、病院の相談室などにご相談ください。

## ● 在宅緩和ケアの医療費

「家で緩和ケアを受けながら生活するなんて、すごくお金がかかるのでは？」と思われるかもしれませんが、実際には、在宅緩和ケアが入院と比べて格段に費用がかかるということは、ほとんどありません。

在宅緩和ケアでも、入院と同じように医療保険が適用になります。患者さんが40歳以上であれば、ご病状によっては、介護保険を使って日常生活の様々な場面で介護サービスを受けることができます。

ただし、在宅緩和ケアにかかる費用は、患者さんのお身体の状態、ご自宅で利用されるサービスの内容等によっても違ってきます。詳しくは、病院の相談窓口やお近くの在宅療養支援診療所に相談してみてください。



### 在宅療養支援診療所

在宅療養支援診療所は、24時間体制で、患者さんやご家族からの連絡を受け、往診や訪問看護を提供できる仕組みを整えている診療所です。在宅療養支援診療所は、介護サービスを調整するケアマネジャー（介護支援専門員）との連携や、容体急変時に入院できる病院とも連携しています。

お住まいの近くの在宅療養支援診療所は、病院の相談窓口への問い合わせのほか、インターネットで直接検索することもできます。





# 緩和ケアとは？

---

2008年6月 第1版発行

2018年7月 第2版発行

2021年4月 第3版発行

2023年12月 第4版発行

発行：静岡県立静岡がんセンター

監修：静岡県立静岡がんセンター 名誉総長 山口 建

作成：静岡県立静岡がんセンター 患者家族支援センター緩和ケアセンター

静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センター よろず相談

静岡県立静岡がんセンター 研究所 患者・家族支援研究部

## ■問い合わせ先

静岡県立静岡がんセンター 疾病管理センター

〒411-8777 静岡県駿東郡長泉町下長窪 1007

TEL 055-989-5222（代表）

---

